

## 「若手交流会」開催のお知らせ

政治経済学・経済史学会における若手研究者の学会活動を活性化するため、秋季学術大会にあわせて以下の要領で「若手交流会」を開催します。学会内外の若手研究者の幅広い参加をお待ちしています。

研究委員会

- 【日 時】 2022年10月21日（金）17時15分～19時00分  
(同日16時から、大原社会問題研究所の見学会を開催します。)
- 【場 所】 法政大学多摩キャンパス 総合棟5階 多目的ルーム
- 【テーマ】 日本語論文投稿のコツ～編集委員からお話を聞く～
- 【ゲスト】 永山のどか（青山学院大学）  
榎一江（法政大学）
- 【司 会】 大塩量平（立命館大学）

- 見学会、若手交流会の参加にあたっては、専用フォーム (<https://forms.gle/QKNH5TDnFEfLPH4S6>) からご登録ください (締切：10月17日（月）17時)。会場の人数制限のため、当日の参加受付は致しかねます。
- 見学会、若手交流会ともに、キャンセル時は下記問い合わせ先に必ず連絡してください。
- 大原社会問題研究所見学会の内容は、研究所の歴史および所蔵資料の紹介です。見学会から参加される方へは、見学会集合場所について10月17日（月）以降に個別に連絡いたします。
- 情勢の変化に応じて、見学会は中止の可能性があります。また、交流会はオンライン開催に変更する可能性があります。変更がある場合は、登録者へ10月17日（月）までに連絡いたします。

\*\*\*

### <趣旨>

研究者にとって学会誌に査読付き論文が掲載されることは、同じ分野の多くの研究者に自らの研究内容を伝えることができる重要な機会です。さらに大学院生にとっては、研究者としてのキャリアを確立するため、博士論文を執筆するため、といった理由から査読付き論文は重要な意味を持っています。それでは日本語の査読付き論文を執筆、投稿する際の注意点や要点など、日本語論文を投稿する際の“コツ”はどこにあるのでしょうか。また、近年では英語など外国語での研究発表の重要性も高まっています。このような環境下で、日本語論文を投稿する意義について、若手研究者や院生の関心は高いことと思います。

そこで、本年度の若手交流会は、『歴史と経済』の永山編集委員長と榎副委員長をお招きし、このような点について考えてみたいと思います。ゲストによる講演の後、参加者の皆様と座談会形式で質疑応答を行います。なお、交流会の開始前に大原社会問題研究所の見学会を予定しています。こちらへもぜひご参加ください。

※問い合わせ先：見浪知信（桃山学院大学） [tminami@andrew.ac.jp](mailto:tminami@andrew.ac.jp)